

島根

殿町の
松本歯科医院

松江市殿町368

院長 松本 京子
☎(0852)213159

☒南殿町駐車場です

松江総局

「もう1人のハーン」

名はカルシユ



フリッツ・カルシユ博士若松秀俊教授提供

1925年から約14年間、旧制松江高校(現・島根大)で、ドイツ語を教えた哲学者フリッツ・カルシユ博士(1893~1971)の業績を伝えたいと、同博士の遺品を保管する東京の大学院教授が、松江市内で博士が住んだ旧外国人宿舎の保存を訴えている。世界に日本を紹介した小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)に対し、カルシユ博士は県と欧州の窓口になった「もう1人のハーン」とし、県民に広く知ってもらいたいという。(金井信義)

旧制松江高で独語教え、欧州の窓口

宿舎の保存を訴えている。土や運輸などを務めたのは、東京医科歯科大 細田吉蔵・元衆院議員 大学の若松秀俊教授。若松教授は99年9月、国際会議でドイツを訪れた際、カルシユ博士の次女と知り合った。アメリカに住む長女や教え子から博士の足跡をたどると、当時の生徒らが慕う博士の人柄にひかれた。松江高校時代の教え子に、長崎で被爆しながら献身的な医療活動を通じて、「長崎の鐘」などの著書で知られる永井隆博

東京の大学院教授訴え

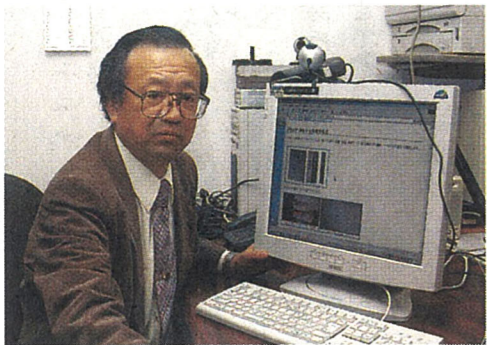


カルシユ博士らが住んでいた旧外国人宿舎松江市奥谷町で

「功績」外国人宿舎保存と共に

旧外国人宿舎は、松江市奥谷町にあり、木造2階建て、延べ約140平方メートル。24年に完成し、外国人教師の宿舎として使われていた。島根大の教員宿舎になり、66年から独身職員の宿舎として使われていたが、老朽化が進んで5年ほど前から空き家になっている。また、若松教授が博士の家族から託されて保管している約1万4千冊に上る哲学の研究ノート、博士が松江周辺の風景を描いたパステル画約85枚、撮影した写真約500枚など、当時の松江周辺の様子を示す貴重な資料があるという。これも宿舎での保存などを求めている。

若松教授は「八雲は、日本を世界に紹介した功労者。カルシユ博士は、生徒や住民らとの交流を通じて、松江とヨーロッパの文化の窓になった。各界のリーダーとなった若者に多大な影響を与えた功績も大きい。宿舎を記念館に改装し、資料と共に保存してほしい」と話す。島根大の保母武彦副学長は「老朽化し、現状のままでは活用できない。博士の業績や近代建築としての価値を調べ、修復すべきかどうかを検討したい」と話している。



「カルシユ博士の功績を知ってほしい」と話す若松秀俊教授東京都内で